京都乙訓
# 普及センターだより

2016
9
平成28年

第60号　平成28年9月12日発行

## 法人化でさらなる信用、たゆまぬ挑戦を続ける

伏見区淀（株）生種農園　代表取締役 林 俊孝さん　取締役 林 種男さん（父）

淀川、宇治川、木津川の三川合流地域の砂質土壌で九条ねぎを周年栽培。品種選定、土づくり、病害虫防除など常に新しい栽培技術の実証を重ね、味にこだわったねぎ作りを追求しています。大手惣菜業者や料亭との契約栽培を行うなど、平成 26 年の法人化を契機に新たな経営を展開。生産者が集う「淀ねぎの会」の仲間と共に「特選淀ねぎ」を広める活動もされています。

再生紙を使用しています　R100
古紙パルプ配合率100％再生紙を使用

# 普及センターでは、各種講座を開催しています!!

今年度の講座の中から、「農業基礎講座」「農業経営講座」「小規模直売所向け基礎講座」の３講座をご紹介します。

## ◆農業基礎講座

### 「農業基礎講座」開講中！

本講座は農業をはじめて間もない方向けの入門講座で、病害虫、土壌、農薬、機械などの基礎講義や先輩農家の訪問などを通して農業を学びます。

本年も６月から 11 月まで全４回を開講中。

残り２回ありますので、就農して間もない方、ぜひ参加しませんか！

**第３回　10 月 18 日（火）**
午後：「先進野菜農家見学」
「農業機械の取扱い方法」

**第４回　11 月８日（火）**
午後：「土壌肥料の基礎知識」
「畑で学ぶ秋冬野菜の栽培技術」

▲ 先輩野菜農家から栽培や販売の話を聞きました（第２回：７月）

## ◆小規模直売所向け基礎講座

### 直売所の魅力アップをお手伝い

京都乙訓地域には約 140 の直売所があり、都市住民と農業の接点としての役割を果たしています。しかし、その多くが作業場の戸口や軒先に野菜を置いて販売するこぢんまりとしたものです。このような個人経営の小さな直売所では、「これでよいのか？」「もっと売上を伸ばしたいのだが…」という悩みを抱えていても、なかなか欲しい情報が手に入らない状態にあります。

そこで、普及センターでは昨年から「小規模直売所向け基礎講座」を開催し、講師の方を招いて、直売所向けの品種やポップの作り方、品揃えの仕方や売り方のテクニック等々、より魅力的な直売所になるためのヒントを講義していただいています。もちろん、お客さんに安心して買っていただくために、農薬の安全使用や農産物の表示の話を普及センターからしています。

これまで以上に地域に愛される「ちょっと寄りたくなる、買いたくなる直売所」づくりのための取組を進めていきます。

▲ 自分が書いたポップを手に講師と記念撮影

## ◆農業経営講座

### 販路開拓！経営講座で商談会に挑戦！

昨年から普及センターでは、「販路開拓をしたい」、「経営向上を目指したい」という方を対象に経営講座を開催しています。

講座は全４回で、１、２回目は基本的な農業経営の仕組みと自身の農業経営の強み、弱みを知っていただきます。その後、３回目で実際の商談で使用する自己紹介・商品紹介用シート（FCP シート）の書き方を学び、４回目には FCP シートを使い、模擬商談会を行います。昨年度受講していただいた方の中には、FCP シートを活用して商談会に参加し、新たな販売先を開拓された方もおられます。

今年度もこの経営講座を以下日程※で開催する予定にしておりますので、興味のある方は普及センターまで、是非ご連絡ください。

※１月 17 日、31 日、２月 24 日、28 日

▲ 経営の強み・弱みを話し合い

## 「京の農業応援隊」チャレンジする農業者を応援！

農業経営が多様化し、農産物生産に加えて商品開発や販路拡大をめざす方も増えています。そこで農業関係機関と商工会議所・商工会等で構成する「京の農業応援隊」組織をつくり、経営や販売、加工技術等を含めて専門家とともに支援する仕組みを作りました。

京都乙訓地域では６月 22 日に京都乙訓地域農業応援隊第１回会議を開催。構成団体は 23 組織で、京都市、向日市、長岡京市、大山崎町、各商工団体、JA、乙訓農商工連携推進協議会、農業ビジネスセンター京都、農地中間管理機構、京都府関係機関等です。農業と商工サイドの相互理解と情報共有をすすめ、農業技術向上や新規就農者への支援に加え、６次産業化・経営の多角化・規模拡大等の取組みを応援していきます。ご相談は「京都乙訓地域農業応援隊」（事務局：京都乙訓農業改良普及センター）までお願いします。

▲ 農業ビジネスセンター京都とともに訪問

## 地域で大活躍 「頼れる農業士さん」

石田　祝子さん
（長岡京市）

### 夏は小ナス、旬のおいしい野菜を皆さまに。

出荷箱に宝石のように美しく並べられた艶やかとした濃紫の小ナスに思わずうっとり。長岡京市でパートナーとともに小ナス栽培を守り続けておられる石田さん。

小ナスは、フラワーネットを用いた独自の栽培仕立で、傷がつかないように、手間暇かけて作られています。最も美味しいものをお届けするため、朝、夕の２回こまめに収穫し、すぐに箱詰めされています。「一番おいしいサイズのものを料理してもらいたいから、手の感触で大きさなどを感じ取って収穫しているの。とげが鋭く、刺さったら痛いけど。」と祝子さんは笑顔で話されます。大切な方への贈り物として、市場からも好評の小ナス。からし漬け、てんぷら、おばんざい。「食された方から、『美味しい！』と聞くと本当にうれしい。野菜は手をかけたら手をかけただけ、いいものができる。栽培が少なくなってきているけど、作り続けたい。」

小ナスをはじめ、タケノコや花菜を栽培され、長岡京市で昔から栽培されている親しみの深い特産品を食卓へお届けできるよう、丁寧に愛情をこめて農業に取り組まれています。

## 「援農隊」がお手伝いします！

エダマメの出荷調整のお手伝い

一時的な人手不足が予想される時、ぜひ、援農隊に御相談ください。

「援農隊」は農業に興味を持ち、農家のお手伝いをしたいと思っている方々が登録されている農業の応援団です。

**問い合わせ先**　京都乙訓農業改良普及センター
電話　075-315-2906

## 赤色ネットと黄色テープを活用してネギアザミウマを防除

露地ネギ栽培では、ネギアザミウマによる食害とネギえそ条斑病の被害が問題となっています。赤色ネットをトンネル被覆するとネギアザミウマが内部に侵入しにくいことが報告されていますが、ほ場全体を被覆すると資材費も上り、追肥や防除作業もしにくくなります。

そこで、表紙で紹介した（株）生種農園では、畝の両端５ｍを赤色ネットでトンネル被覆し、畝の側面に黄色テープを展張する方法を考案されました。生育初期に周囲からのネギアザミウマの侵入を抑えることで、ほ場全体の被害が軽減すると考えられます。薬剤防除と組み合わせた物理的防除技術として効果を確認していきます。

**発行　京都府京都乙訓農業改良普及センター**
〒615-0846　京都市右京区西京極徳大寺団子田町15
TEL 075-315-2906　FAX 075-315-2909
http://www.pref.kyoto.jp/kyotootokuni-f/
平成28年9月10日発行